



## 校長室だより

校長 鳥淵美和子

先日、4年生が田植えを行い、田んぼに鮮やかな緑が広がり初夏の訪れを感じます。ツバメたちもひなに餌をあげるためにせわしなく毎日巣へ飛んできては飛び立つ光景は時間を忘れ見入ってしまいます。

最近感じていることは、「自ら未来を拓き、明るい未来社会を創っていくのは目の前の子ども達。そして、この子ども達に確かな力をつけるのが我々の役目。そのためには、やはり、学校や教職員が元気であることが大事」ということです。教員が足りないと報道されています。児童数に応じて学級数が決まり、学級数で教員の定員数が法律によって決まります。いろいろな配慮から追加で非常勤の教員が加配されています。本校でも少人数研究としてTTの教員が加配されており、子ども達によりきめ細かく指導しています。また、通級も本校には開設されており、一人一人のニーズに応えられるよう配置されています。しかし、現在勤めている教員が休みになってしまうと代わりとなる教員がいない状況です。これは本校だけではなく市、県、国レベル全て同じ状況です。このように教員が足りない状況はしばらく続いています。他業種でも同じような傾向があるかもしれません。教員不足の原因としては、教員という仕事に魅力は感じていても、多くの若い世代がライフバランスを考え、長時間勤務は避けたいと感じる学生が増えているということ。また、教員が自分の子どもを出産し、育児との仕事の両立が難しいと教員の仕事をあきらめてしまうこと。病気になってしまい離職してしまうことなど様々な理由があります。その背景には教員の長時間労働が影響していると言われています。教員の勤務時間は8:15~16:45で途中休憩時間が45分間です。残念ながら、朝早く来て休憩も取れず、夜遅くまで仕事をせざる負えない状況があります。そのため児童の登校時刻を8:15に遅らせた学校もあります。また、超過勤務に相当する残業代は支

給されません。児童の登校前や下校後に児童が取り組んだ課題やプリントの採点をしたり、より良い授業を行うための準備や教材研究をしたりしています。しかし、実際は学校で起こった出来事や事件の対応に追われて、思うように時間が取れません。そのことを生きがいとやりがいを感じ、多くの教員が奮闘しています。しかし、他業種との労働時間の差が広がってきていて、教員の働き方改革は待ったなしです。校長としてできることは何だろうと日々考えながら、教員が大きな負担なく働き甲斐を感じられる環境を整えていきたいと願っています。教職離れを加速させず、教員の確保ができるよう職場環境の改善が、教員が元気であることが児童により良い教育ができると感じています。学校だけではなかなかうまく進まない状況があります。そのために学校運営協議会のみな様のお力をお借りし、そして、引き続きPTAのみな様のご協力もいただきながら学校の教育活動を進めていきたいと思っております。

保護者のみな様、教員免許をお持ちで先生として働きたいという方がお知り合いでしたら、ぜひ教えていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

